

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和元年度第2回相模原市立図書館協議会		
事務局 (担当課)		相模原市立図書館 電話：042-754-3604 (直通)		
開催日時		令和元年7月12日(金) 午前10時00分～午後0時15分		
開催場所		相模原市立図書館 2階 中集会室		
出席者	委員	9人(別紙のとおり)		
	その他	3人(生涯学習課担当課長、同副主幹、同主任)		
	事務局	8人(図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他5人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<p>1 議題</p> <p>(1) 次期相模原市図書館基本計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素案について <p>(2) 次期相模原市子ども読書活動推進計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素案について <p>2 その他</p> <p>(1) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・淵野辺駅南口周辺のまちづくりについて <p>(2) その他</p>		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局等の発言)

1 議 題

(1) 次期相模原市図書館基本計画について

事務局から資料に基づき説明をし、質疑応答を行った。

【資料1-1】図書館協議会における今後の予定

【資料1-2】図書館の未来を考えよう実施報告

質疑なし

【資料1-3】第二次図書館基本計画(素案)

・基本目標1について

- 施策の方向①の主な施策「選書スキルの向上」について、この施策が新たに追加されたことは良いと思う。これに関連する質問として、メディアで取り上げられたものなど話題性のある図書について、図書館ではどのような取扱いをしているのか。
- 利用者からのリクエストを受け選定する場合と、様々な情報源を参考にしながら、収集方針に従って選定する場合がある。
- 収集方針の中に、「メディアで話題になった本」を追加してはどうか。
- 素案では、「選書スキルの向上」として選書全般に焦点を当てた施策としている。ご指摘の点についても、選書における今後の課題として検討していきたい。
- 施策の方向①の「蔵書や利用環境の充実」について、蔵書の充実と利用環境の充実はそれぞれ異なるものなので、分けて考えるべきではないか。例えばバリアフリーの視点など、どのような環境で図書館を利用するかは、蔵書とは関連はあるものの、別の方向性と考えられる。
- 蔵書と利用環境を分ける方向で記載案を検討する。
- 施策の方向①の主な施策「市民の多様な読書・情報ニーズに対応する蔵書構築」について、蔵書構築は3館体制で行うという理解だが、3館における蔵書構築の在り方はどのように考えているのか。
- 3館の組織体制にも関わる内容なので、計画の中での具体的な記載は難しい。
- 蔵書の中に、電子資料として電子書籍については触れられているが、オンラインデータベースについては触れられていない。オンラインデータベースの充実や複数館での提供など、何らかの体制の整備が必要と考える。
- オンラインデータベースについても、個別の記載を検討する。
- 施策の方向②の主な施策「公民館図書室への図書館資料の配本や配送システムの充実」について、配送システムの強化だけではなく、配送の迅速さを打ち出せ

ると、施策の目玉になるのではないか。

- 貸出だけではなく、返却ポストの充実など、返却の利便性を高める施策があっても良いと考える。
- 配送システムや返却の利便性を高める施策については予算措置も関わる部分なので、視点として計画の中にどのように表すか検討する。
- 他の自治体のように、公民館などでの返却を検討してはどうか。
- 施策の方向②の主な施策に、「図書館サービスが十分及んでいない地域への対応として、サービスポイントの整備推進の検討」を挙げている。本市では図書館ネットワークを公民館等図書室が補完し、貸出・返却を行なってきたが、他の公共施設等での返却など、連携の可能性についても模索していきたい。
- 施策の方向③の主な施策「国際化に対応した資料や利用環境の整備」について、「国際化」という言葉が漠然としている。例えば、コミュニティの国際化として、まず市内に在住・在勤・在学している外国籍の方や、日本語母語話者以外の方をターゲットとすることと、そういった人々と共生していく地域住民へのサービスも必要と考える。

また、「利用環境の整備」は、「蔵書や利用環境の充実」とも関連するが、国際化という視点に限らず、様々な利用者への利用環境を考える必要がある。施策の方向③の主な施策「各世代のニーズに対応したサービス展開」にも関わることだが、例えば市立図書館では、1階のじゅうたんコーナーが区切られていないためにサービスの難しさを感じていたり、高齢者向けの利用環境をどうするかという課題もあつたりと、利用環境の整備については、この施策だけに留まらないと考える。

- 外国人市民と共生する地域住民へのサービスについては、基本目標2の「行政テーマと連携した情報提供・発信」の中で、多文化共生の視点を入れている。計画全体をもう一度見渡しながらか、構成を検討する。

利用環境については、例えば施策の方向①を蔵書と利用環境に分けた上で、各世代等への利用環境の充実についても記載できるのではないかと考える。

- 関連した質問として、例えば市立図書館内には英語の表記はあるのか。
- 外国語資料コーナーや、サービスカウンター上の案内などに英語の案内を記載している。
- 案内があっても目立たないように感じるのか、図書館全体で国際化に対応して欲しい。
- 外国人市民へのヒアリングでは、ひらがな表記やルビ振り、ローマ字表記も有効と聞いている。また、英語だけではなく、様々な言語への対応も必要と考えている。多様な利用者が想定される中で、できる限り工夫をしていきたい。
- 施策の方向④「ICT を活用したサービス向上」について、サービスを提供する

図書館側の視点がある一方で、ICT を活用できる場や機会についても利用者に提供してほしい。単に最新のメイカースペースを設けるということではなく、ICT を活用した市民の活動を支援できるような、市民が主体となる部分でのサービス向上の視点もあると良いと考える。

- 市民の利用や活動を支援するという視点についても検討したい。

・基本目標2について

- 施策の方向①の主な施策「ビジネス支援」について、どのような方向でビジネスを支援していくのか。
- 橋本図書館が特色を持って実施している取組で、市産業振興文化財団と連携した創業相談会で会場や資料を提供したり、ビジネス支援に必要な資料を重点的に収集したりしている。
- 創業相談会の利用状況はどうか。
- 月に4回（1回4コマ）程度実施しており、利用はされている。
- こうしたサービスを、市全体に拡げていくイメージなのか。
- ビジネス支援は、橋本図書館が地域図書館の特色として積み上げてきたサービスなので、橋本図書館の中で更なる充実を図っていくことを想定している。
- 時代によって図書館の利用方法も変わっていく中で、利用が増え良い形で展開していけるのであれば、サービスを拡げることも検討してはどうか。
- 施策の方向①の主な施策「ライフステージに寄り添った情報提供の充実」について、就職やスキルアップを具体的に挙げているが、これもビジネス支援と関連した情報提供と考えて良いか。
- この施策については、現状では3館がそれぞれの利用者に向けた取組として行っている。それを計画の中で位置付け、よりライフステージに応じた取組として実施していきたいと考えている。
- 就職やビジネスなど、ここで挙げられたテーマについて相模原市は様々な機関がそれぞれサポートを行っていると思う。主な施策の中で、図書館が可能な支援をもう少し詳しく記載した方が、サービス対象者にも分かりやすく誤解が生じないのではないか。
- 具体的な記載について検討する。
- ビジネス支援の例は、3館体制において計画に挙げられた施策をどのように展開していくのか、分かりにくい部分であるように思う。中央図書館を中心として、各館が具体的なサービスをどのように担っていくのか、可能な範囲で記載できると良いのではないか。
- 基本目標2のリード文に「地域における情報拠点」とあるが、個人的には意味が分かるようで分からないという印象がある。例えば、世界中の公共図書館が参

照するユネスコ公共図書館宣言の日本語訳では、「地域の情報センター」と表現している。「地域における情報拠点」でも問題ないが、参考までに紹介させていただく。

- 施策の方向③「地域資料の収集、活用、継承」について、地域資料をきちんと収集して保存していくことが第一義的には重要と考える。当り前のことではあっても、収集・提供については主な施策として盛り込んだ方が良くはないか。

また、それを踏まえた上で主な施策の「地域資料の情報発信や活用推進」が可能になると思うが、施策や括弧内に挙げられた事例は分けて整理できる内容もあるので、記載を工夫した方が良く。

- 収集・提供については当然のこととして施策にはしていなかったが、成果指標にもつながる部分であり、ご指摘を踏まえ施策として位置付けたい。また、「地域資料の情報発信や活用推進」については内容を整理し、バランスを取った記載を検討する。
- 地域資料の収集・提供については、いわゆる地域資料だけではなく、例えば相模原市内にも優良企業が数多くあるので、会社案内を収集してはどうか。
- 市内企業の情報についても、地域資料として重要なものと認識しており、アンテナを張りながら引き続き収集していきたい。

・基本目標3について

- 施策の方向①の主な施策「子ども向けブックリストの配布など公民館図書室の利用促進」について、「公民館図書室の利用促進」がやや唐突で気になった。
- 「子ども読書活動推進計画」全体の中で見ると、これが一部だと分かり違和感が無いと思うが、基本計画において部分的に抜き出して記載するかどうか検討する。
- 子どもの活動範囲は限られており、近所にある地域の公民館図書室を利用する傾向にあるという話が以前の協議会であったと思う。ブックリストの配布とは分けて、例えば「子どもが利用しやすい地域の公民館図書室の利用促進」など書き方を工夫することで、新たな視点が加わるのではないか。
- 施策の方向①の主な施策「視覚等に障害がある子どもが利用しやすい資料の充実及び読書環境の整備」について、施策の内容は理解できるが、例えばディスレクシア、学習障害等の様々な障害がある中で、「視覚等」という集約の仕方が適切かどうか気になった。
- 6月に施行された「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）においては、ご指摘のような様々な障害を対象としながら、「視覚障害者等」という表現が使われている。こうした事例も踏まえながら、適切な表現について検討する。

- 「視覚等に障害がある子どもが利用しやすい資料」という表現があるが、ここでの「利用しやすい資料」とは、例えば視覚障害がある子どもが触って感じる布えほんなどのことか。
- 布えほんやデジ資料など、子どもの特性に応じた様々な媒体の資料を包含している。全ての子どもが本につながるような資料の充実を目指している。
- この施策は子どもの読書に関わるものなので、一般的な法令等の表現を用いるよりも、様々な特性を持った子どもたちが誰でも楽しめるというような表現があっても良いのではないか。
- 後ほど「子ども読書活動推進計画」について説明させていただくが、読書バリアフリー法を踏まえた記載もしているので、その内容も確認しながら、改めてご意見を頂きたい。
- 施策の方向①に関連し、主に図書館に関わることを入れたという事務局の説明だったが、例えばブックスタートやセカンドブックは入れなくて良いか。あわせて、第6章の成果指標として取り上げられるかどうかを確認したい。
- 非常に重要な事業と捉えているが、図書館が事業主体ではないことから、基本計画の記載からは外している。「子ども読書活動推進計画」ではしっかりと触れていきたい。また、「子ども読書活動推進計画」では、「ブックスタート事業、セカンドブック事業の利用率」を成果指標としている。
- 施策の方向③「子どもの読書の応援隊の支援」は、主にボランティアの方を中心に書かれているように見えるが、例えば公民館・児童館・学童など、市の他の施策で動いている組織や活動との連携は盛り込まなくて良いか。
- ボランティアだけではなく、地域の方々の関わりなども含めて応援隊としている。基本計画素案ではボランティア中心に見えるため、記載の仕方を検討する。
- 基本目標の標題に「子どもが読書を楽しみ「生きる力」を育む図書館」とあるが、「生きる力」という言葉は非常に大きなものなので、それをどういう方向で読み解けば良いのか、方向性を示しながら内容を整理していくと、読み手にとって分かりやすいものになるのではないか。

例えば中高生世代を考えた場合は、内省により思考を深めることや、将来の仕事をイメージすることなども、「生きる力」に当たる。POPを作る、選書ツアーに参加するなど、自分の考えを図書館での体験的な事業に活かすことで、社会との接点に気づき、「生きる力」が育まれることもあると思う。

計画中に記載しきれないこともあるかと思うが、例えば年齢に応じた取組の図などがあると、イメージが沸きやすいのではないか。
- 資料2の「子ども読書活動推進計画案」では、1ページで「生きる力」について方向性を示している。また、発達段階に応じた読書の効果については、同ページ下段の表に整理している。基本計画の中では表現しきれない部分だと思うので、

子ども読書活動推進計画の中で詳しく記載していきたい。

- 基本目標3の主な施策に、順不同で個別の事業が記載されるよりも、年齢に合わせた支援という内容が一つ入ることで、様々な世代のことを考えていく軸があることが伝わるのではないかと思う。年齢に合わせた支援とまとめておいて、詳細は子ども読書活動推進計画につなげるなど、読み手に流れを作るような書き方をしてはどうか。
- 例えば、「発達段階に応じた効果的な取組」など、書き方を検討したい。
- 学校現場との連携については、施策の方向①の主な施策に「子ども資料団体貸出制度の配送方法の見直しなど学校等関係機関との連携強化」が挙げられている。「学校等」という表現で、幼稚園や保育所等の環境も含めているのだとは思いますが、より分かりやすく表現した方が良いのではないか。
また、この施策だけでは、貸出における連携だけに限定されているように見えるので、学校等関係機関との連携の位置付けを検討してはどうか。
- 子どもたちが普段いるところに、どうやって本を届けるのかが大事な取組だと考える。基本計画での書き表し方については検討したい。

・基本目標4について

- 「施策の方向② 地域図書館における地域に根差したサービス充実」で「地域図書館」という表現が使われているが、「公民館図書室」とは異なるものなのか。
- 16ページの図書館ネットワークの図で記載しているとおおり、この計画において「地域図書館」とは、相模大野図書館・橋本図書館・市立図書館の地域図書館部分を指している。
- 施策の方向③の主な施策に「民間活力の効果的な活用」とあるが、具体的にはどのような活用をイメージしているのか。また、この施策を実施した時に、どのように評価をしていくのか。
- 現在図書館3館で窓口業務委託を実施しており、引き続き窓口業務において民間活力を効果的に活用するという意味合いで記載している。
- 窓口業務委託は手段であって、目標ではないように思う。効果的に民間活力を活用した結果、図書館は何を目標とするのかが気になる。
- 効果的な活用による目標や運営について、記載を検討したい。
- 施策の方向②について、身近なところに図書館のサービスポイントがあり、サービスを展開することは重要と考えるので、地域図書館への着目は良いと思う。加えて、公民館図書室を含めた面での広がりについても検討してほしい。
また、各施設がそれぞれの利用者にサービスを提供するだけでなく、各施設の結びつきが、相互の利用者同士を結びつけるようなサービス展開ができると良いのではないか。

- 最近、マスメディアにおける犯罪等の報道で、相模原市のネガティブなイメージが流通していると感じることがある。それに対して、ネガティブなイメージを払拭するような活動を市が取り上げなくてはならないと思う。例えば、子どものいじめの問題に関して、いじめに関する本があったり、図書館が居場所となったりするなど、図書館にもできることがあるのではないか。
- 子どものいじめや貧困など、市全体として抱えている様々な課題に対しては、図書館だけではなく、関係する部署がそれぞれできることを実践していかなくてはならないと考えている。課題を注視し、市全体として取り組んでいきたい。
- 公民館図書室は、公民館の中でも子どもが出入りしやすい場所なので、子どもたちの居場所となれたら良いと思う。地域の身近な各施設が活性化することで、市の活性化にもつながるのではないか。
- 市全体として取り組むという意味では、社会教育委員会議においても、孤立や貧困などのコミュニティの課題について、様々な部署が関係しながら議論をしている。
- 公民館では、夏休みに向けて広く図書室等を利用していただくために、子どもたちが気軽に訪れて勉強ができるような環境を整備している。
津久井地域は広く公民館だけでは対応できないので、地域センターなどとの連携も必要かと思う。
- 広い市域において地域に根ざしたサービスを実施していく上では、図書館・図書室・公民館の重層的な関係を把握しておくことで、お互いにゆるやかな連携が取れるのではないか。

・成果指標について

- 指標の7「読書が好きですか」という質問に「当てはまる」、「どちらかという」と当てはまる」と回答した子どもの割合」について、指標の説明として「子どもが読書を楽しんでいるかを定性的に測る指標」とあるが、割合を出すのであれば定量的な指標ではないか。
- 「子ども読書活動推進計画」と重なる指標だが、説明の表現が異なっているので、整合性を取りたい。
- 指標の1に「市民登録率」・「内18歳以下の子ども」とあるが、基本計画では例えば高齢者へのサービスについても検討しているので、「〇歳以上」の登録率を加えても良いのではないか。
- 指標の4「レファレンスの受付件数」に関連して、受付件数だけではなく、レファレンス事例公開数を加えてはどうか。国立国会図書館が中心となって、全国の図書館のレファレンス事例をデータベース化して公開しており、相模原市の3図書館も参加している。事例を提供し図書館の調べものに貢献することで、市民

の課題解決にも貢献している好例と考える。

○ 指標の6「講座・講演会等の参加者数」について、企画展示の実施数も入れてはどうか。通年で様々な取組をしており、図書館の活動を測ることができるのではないか。

○ 基本目標4の施策において職員の人材育成・研修に触れているので、研修で積極的に学び水準の向上を図っていることを測る指標として、例えば研修の参加者数や職員一人当たりの研修参加回数も考えられるのではないか。

○ インターネットに関連する指標が無いので、例えばWebサイトへのアクセス件数や、OPACの検索回数等を検討してはどうか。

また、子どもに関連した指標としては、ホームページのリニューアルで10代のページが加わり、新たな情報発信の取組がされていくと思うので、10代のページへのアクセス数など、何か一つ指標を設けても良いのではないか。

● 成果指標に関して多くの案をいただいたので、これらの指標案も含め、どの指標を選択していくのか検討していきたい。

○ 指標の1「市民登録率」を世代で捉える時に、若者世代の視点も考えられる。例えば、市が対象としている若者への支援は40歳まで延びており、国の政策においても、これまでターゲットと考えられなかった層への支援が視野に入ってきた印象を受けている。

社会になかなか参画できない若者世代への支援について、図書館でもアプローチができるのではないかと思うので、そのような年代の利用率も考慮に入れながら、計画にも施策等を組み込めると良いのではないか。

○ 指標の3「利用者の満足度」の現状値について、「30.8%」という数字が挙げられている。注を読めば「やや満足」を除いた「満足」のみの数字ということが分かるが、図書館利用者に限っての数値としては、満足度が低いという印象を与えてしまうのではないか。

● 今後目標値を具体的に定める際には、「満足」の数字を上げていくのか、「やや満足」の数字も含めるのか検討したい。

○ 次回は答申案の協議になるが、協議の前にある程度内容の整理が必要と思われる。本日の協議を踏まえた修正案を各委員に照会し、意見があれば提出するという流れで良いか。

● 次回の協議会までに修正案をご確認いただき、ご意見をいただきたい。

(2) 次期相模原市子ども読書活動推進計画について

事務局から資料に基づき説明をし、質疑応答を行った。

○ 中学校で子どもたちの様子を見ていると、本が近くにある、時間がある、興味

又は必要があるという3つの要素のどれかが欠けると、読書には進まないと感じている。子どもたちにとって身近な、公民館図書室等の充実を図っていくことが必要と考える。

- 21ページの成果指標に、「18歳以下の子どもの図書館貸出登録者の割合」の現状値で30.4%という数字があるが、「市民登録率」(22.7%)のうち、30.4%と考えると良いか。
- 18歳以下の子どもの数を母数とし、そのうちの30.4%となる。
- 図書館に行きたくても一人ではなかなか行けないという状況がある中で、保護者自身が読書に興味を持たないと、図書館への関心も生まれにくいのではないか。家庭の中に本があり、読書活動が生まれ、保護者から子どもへと本を手渡していくことができれば良い。その意味で、ブックスタートやセカンドブックは大切な事業だと思うし、ブックスタート以外にも、有効な施策があるかどうか研究する必要があると考える。
- 12ページの「家庭・地域における子どもの読書活動の推進」の中で挙げられている、保護者及び家庭に対する施策は重要と考える。例えば、多摩市の事例では、「プレパパ」「プレママ」講座を図書館で実施している。相模原市でも他の組織において「プレパパ」「プレママ」を対象とした事業を実施しているのではないかと思うので、図書館も関わりを持ってはどうか。
- 昨年度の協議会でも意見があったと思うが、家庭において様々な事情を抱えている中で、単純に「親子」という表現を使うことが適切かどうか気になる。多様な環境にいる子どもたちのために、親子関係や家庭に留まらない、多様な読書の環境を用意することが重要ではないか。
- 19ページの「普及啓発活動」や、「図書館基本計画」にも関わるかもしれないが、子どもたちや市民が本に触れ合える場所は図書館だけではないので、例えば書店との連携は考えられないか。
- 21ページの成果指標「ブックスタート事業、セカンドブック事業の利用率」について、利用率の分母は何か。
- いずれも健診と連動して事業を実施しており、健診の対象者を分母としている。
- 12ページの主な施策「家庭における読書活動の支援」に、具体的な取組として「保護者向け読書情報の提供」が挙げられている。保護者が子どもに本を選ぶための情報提供だと思うが、保護者自身が読書を楽しむための情報提供もできたら良いのではないか。

2 その他

(1) 報告

- ・ 淵野辺駅南口周辺のまちづくりについて

6月1日に行われた、第3回次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会等について、生涯学習課から資料に基づき報告した。

また、有識者協議会に参加した小山委員と、市民検討会に参加した高柳委員から、次のとおり報告があった。

- 第4回の市民検討会では、有識者委員からまちづくりについての講演があった。これまで検討会を重ねてきた中では、自分たちが気になった点についての要求が挙がること多かったが、講演を聞き、行政への要求型まちづくりではなく、市民が自分たちで責任を持ってまちづくりをしていく意識を持つことが大事だということが印象に残った。

検討会はスタートしたばかりだが、その点に留意し、公共施設を利用している市民等の意見を大切にしながら、検討を継続していきたい。

- 資料にもまとめられているように、様々な論点が出てきている。自分たちが気になった点を中心でありつつも、大勢の参加者の関わりがあるためか、たくさんの論点が出てきており、かつ、問題点や課題が共有されてきていると感じる。

参加者の意見だけではなく、他の市民の目線や視点をどのように組み入れていくのか、また、それらの意見を踏まえ各グループで議論を深めていくことが今後の課題と感じている。

(2) その他

- 令和元年度第3回の図書館協議会は、8月下旬の実施を予定している。

以 上

相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	役 職	氏 名	所 属 等	出欠席
1	会 長	鈴木 良雄	専門図書館協議会事務局	出 席
2	副 会 長	高柳 眞木子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会	出 席
3	委 員	朴木 昇	相模原市立中学校長会	出 席
4	〃	佐藤 正文	相模原市立小学校長会	出 席
5	〃	高井 登志子	相模原市公民館連絡協議会	出 席
6	〃	金子 友枝	相模原市社会教育委員会議	出 席
7	〃	小山 憲司	中央大学文学部教授	出 席
8	〃	井狩 芳子	和泉短期大学児童福祉学科教授	出 席
9	〃	三木 涼子	公募	欠 席
10	〃	水田 繁生	公募	出 席